

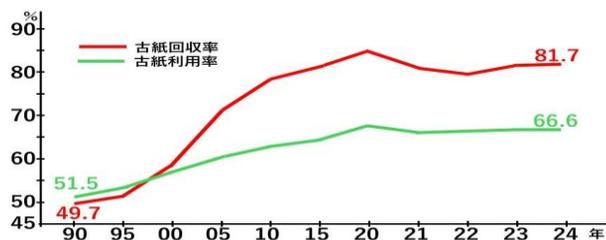


## Topics

## 古紙の回収率と利用率

デジタル化が進み紙の需要が減ってきておりますが、今回は日本の古紙回収率と利用率についてのご紹介です。

日本は、古紙の回収システムが整備されており、利用率・回収率は世界でもトップクラスにあります。次のグラフは、日本での古紙の回収率と利用率の推移を示したものです。



## 【古紙回収率】

現代日本の古紙の回収率は、1980年代の46%から徐々に増加し、環境問題やリサイクルに対する意識の高揚、自治体におけるごみ減量でよかった心底思いました。おそろく霧が濃くなっ対策等から古紙の需給に関わらずに回収が先行、また海外の旺盛な古紙需要も古紙回収率の上昇に貢献し、2008年のリーマンショック及び2011年の震災、2020年からのコロナ禍等による紙・板紙の消費の落ち込みがあったものの回収率は80%前後の横ばいで進み、2020年は一時的に84.9%に達しましたが、2024年は81.7%になっております。「古紙回収率」は、「古紙回収量」÷「紙・板紙消費量」で求められ、国内で消費した紙・板紙のうち、国内で古紙として回収された割合を示したのですが、国内で消費される紙・板紙のうちワンウェイで使用され再び資源として利用できないトイレットペーパーなどの衛生用紙、防水・防湿加工されて製紙原料としては利用回収が困難なものが、母の「紙・板紙消費量」に含まれています。したがって、これら回収・利用が困難なもの等を勘案すると、回収率にも限界があり、約83%程度(2023年数値、製品の輸出入に伴う包装材等は考慮)を上限とする試算値があります。

こうした回収限界を考慮すると現在の回収率は極めて高い水準に達していることとなります。

## 【古紙利用率】

「古紙利用率」は、「古紙消費量」÷「製紙用繊維原料合計消費量」で求めており、製紙用繊維原料全体に占める古紙の割合を示します。古紙利用率は、1980年(4.15%)代以降上昇傾向にあり、1990年(51.5%)に50%を、2003年(60.2%)に60%を超え、リサイクル法(現在はこの神社の眷属信仰からペット同伴も黙認されていました。和やかには「資源有効利用促進法」)で定められている2005年度の利用率目標60%を達成しました。その後も2010年度目標値62%、2015年度目標値64%、2020年度目標値65%とも、製紙メーカーをはじめ関係者がこの目標達成に向け取り組んだ結果、目標を達成しました。2021年なくらいまで雨が強くなくなったため、奥宮(山道を1時間くらい歩いた先4月に2025年度の古紙利用率目標が発表され、紙・板紙の需要予測にある)への参拝は断念しましたが、登山コースもいつか来ようと友人から65%が達成できる限界と判断、目標値は65%に据え置かれました。しかしながら、2020年から古紙利用率の高い板紙の生産量が古紙利用率の低い紙の生産量を上回るようになり、全体の古紙利用率は板紙の高い古紙利用率によって引き上げられ、2024年の古紙利用率は66.6%と回収率と同様に極めて高い水準の値となっております。

出典:日本製紙連合会ホームページ

「日本の紙リサイクル」2025年(令和7年)4月(公財)古紙再生促進センター

## Series

御朱印集めの話③～  
何度も行きたくなる神社

東港金属・営業部管理課  
阿部 沙耶香

こんにちは、東港金属(株)管理課の阿部です。さて3回目です。前回は御朱印帳のお話をしましたが、今回は神社の話です。私が御朱印をいただきに行った神社の中で、よく印象に残っている神社の一つが「秩父 三峯神社」です。

三峯神社はその名の通り山の中にある神社です。埼玉県にありますので行かれたことのある方はご存知だと思いますが、境内以前に近隣の駐車場に行くのもひたすら車で坂道を登っていきます。私が友人とお参りに行った日はその登りの坂道で霧が出てきてしまい、昼間だが薄暗く、一面真っ白という運転手としてはとても恐怖な道中となりました。

ほとんど前が見えず、フォグランプが付いている車ばかりです。同乗者がいたので駐車場の看板が見えるまではずっと心臓がバクバクでした。なんとか霧の中を抜け、無事駐車場にたどり着くと平らな道になりました。さあ行くぞと参道を歩き出すと今度はしとしとと雨が降り出しました。山中の神社でうっすらと霧が出て雨が降る中、鳥居をくぐるといふなんとも神秘的な景色でした。普通出先において、突然雨に降られるのは困ってしまいますが、神社にお参りしたときに雨が降ると縁起が良いということを知っています。霧が出てきたときには来るな！と拒絶され来たねと歓迎してくれているものだと思います。

この神社はオオカミ(オイヌサマ)が神様の使いとされ、狛犬の代わりにオオカミやオイヌサマの像がありますが、それらに迎えられるながら参道をいき、拝殿へ向かいます。整備はされていますが山道です。また雨で濡れているので足場は余りよくなかったと記憶していますが、山中という環境のためか、すこしひんやりとした空気でしたがそれがとても居心地のいい空気でした。ハラハラしながら登ってきたことも忘れ、参拝し御朱印も頂き、境内や博物館を満喫しました。参拝者の中にはペット(特に犬が多かったです)を連れている方も見かけました。当時にお互い譲り合ってお散歩を楽しんでおられ、他では見れない光景だと思いました。この随筆を書くにあたって調べたところ、残念なことがあり、現在境内への同伴も禁止されているそうです。流石に傘が必要ですが、登山コースもいつか来ようと友人から65%が達成できる限界と判断、目標値は65%に据え置かれました。しかしながら、2020年から古紙利用率の高い板紙の生産量が古紙利用率の低い紙の生産量を上回るようになり、全体の古紙利用率は板紙の高い古紙利用率によって引き上げられ、2024年の古紙利用率は66.6%と回収率と同様に極めて高い水準の値となっております。

今回はここまでです。お読みくださってありがとうございました。

つづく



## Cyclers Topics !

本コーナーは、今月からMarket Forecasts に代わり「Cyclers Topics !」と題し、サイクラーズグループの取り組みについてご紹介をしていきたいと思っております。第一回目は、サイクラーズグループ全体についてのご紹介です。

現在(2025年9月1日現在)サイクラーズ(株)を持ち株会社とするグループは東港金属(株)をはじめとして10社となりました。この10社で総合的に2つの事業を行っています。まずは「資源リサイクル事業」。脱炭素に向けたカスケード式再循環選択のリサイクルを実現してゆきます。そして、「サーキュラーソリューション事業」。リサイクル技術の高度化に必要なソリューションで課題解決に挑みます。

詳細は、7月22日にリニューアルされたばかりのコーポレートサイト <https://www.cyclers.co.jp/> をぜひご覧ください。

次回からはグループ各社で行っている様々な取り組みについて、ご紹介をしてまいります。



cyclers